

横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果総括表（保育分野）

事業所名	白梅保育園	
報告書作成日	平成30年3月7日	（結果に要した期間 7ヶ月）
評価機関	株式会社 学研データサービス	

評価方法

自己評価 (実施期間:平成29年 7月 27日～平成30年 1月 11日)	園長、主任を中心に作成
評価調査員による評価 (実施日:平成30年 2月 14日、平成30年 2月 16日)	①第1日目 ガイダンス、施設見学、保育観察、事業者（職員）ヒアリング（園長、主任保育士、保育士、事務員）、書類確認 ②第2日目 事業者（職員）ヒアリング（園長、主任保育士、保育士、事務員、調理員）、保育観察
利用者家族アンケート (実施期間:平成29年 10月 16日～平成29年 10月 30日)	送付方法・・・園を通して保護者へ配付 回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送
利用者本人調査 (実施日:平成30年 2月 14日、平成30年 2月 16日)	第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。また、幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施しました。

総評(評価結果についての講評)

施設の特徴、施設のよい点・改善すべき点などの総括

*施設の理念を踏まえながら、施設全体としての特徴を総合的に示すとともに、特によいと思われる点、または、より質の高いサービスの提供のために、工夫すべき点・改善点などについての総括を以下にご報告いたします。

《施設の概要》

白梅保育園は、横浜市営地下鉄ブルーライン「踊場」駅から徒歩10分ほどの位置にある、昭和48年4月開所の私立保育園です。近くには自然豊かな公園があり、散歩コースに恵まれています。保育目標に「元気な子・優しい子・自分で考えて行動できる子」を掲げ、保育士、栄養士が協力して保育を進めています。定員は60名(0～5歳児)、開園時間は、平日は7時30分～18時30分、土曜日は7時30分～18時30分です。保育の中で、0～2歳児はリトミックを行い、3～5歳児クラスではそれに加えて専門講師による体操教室や英語遊びを行っています。日常の保育や行事の実施において、子ども達の主体性を大切にし、子どもたちとクッキングをするなど食育にも力を入れています。

《特に優れている点・力を入れている点》

○子どもたちの主体性を尊重し、「元気な子・優しい子・考えて行動できる子」を育成しています

子どもたちの主体性を育てる保育を行っています。遊ぶときには、職員がブロック、製作遊び、おままごとなどさまざまな遊びのコーナーを作り、子どもたちは遊びを選んで遊んでいます。季節の歌リストを作成してたくさん歌をうたい、毎月のお誕生会では、子どもたちと相談しながらクラスごとに歌の発表をしています。0～2歳児クラスでは、定期的に歌の会を行い手遊びや音楽遊びを楽しみ、お遊戯会で披露しています。0～2歳児クラスでは定期的にリトミックを行い、3～5歳児クラスでは、月2回専門講師による体操の時間を設け、運動会では日ごろの成果を披露しています。これらを通して、保育目標である「元気な子・優しい子・考えて行動できる子」を育成しています。

○園が大切にしている保育の理念、方針、目標などを全職員で理解し一体となって子ども一人一人のありのままを尊重する温かい保育を実践しています

子どもを第一に考えて掲げている保育理念「子ども一人ひとりのありのままを大切に、子どもの力を信じ、心身共に健やかに育てる」や保育の方針、目標などについて園長を中心に常に職員間で確認し合い理解をし、全職員が一体となって子ども個々の人権を尊重する温かい保育を行っています。また保育士は子どもの主体的な行動を遮ることのないよう保育中の指示や声かけを多くし過ぎないで、子どもの様子を見守り意向を汲み取りながら、子どもの主体性をはぐくむ保育を心がけています。職員間でのチームワークや雰囲気も良く、全職員が全園児の特性を把握して連携しながら子どもたちの気持ちを大切に、良いところを褒めて伸ばす保育を実践しています。職員は笑顔で穏やかに子どもたちとかわかっていて、子どもたちにとっても居心地の良い環境となっています。

○食育活動や行事食を通して、子どもの食への関心が育てられています

2～5歳児クラスでは毎月1回クラスごとにクッキング保育を行い、4、5歳児には食事に関する話をしています。1月には5歳児と栄養士と一緒に献立を考え、3月にその献立を取り入れて給食を提供するなど、さまざまな工夫をして食育活動を行っています。また、楽しく食事ができるよう、5月には春巻きをかぶと型に盛り付けて提供したり、七夕にはいなり寿司を天の川に見立てて飾るなど行事食にも配慮しています。月1回郷土料理の日を設け、日本にもさまざまな食文化があることを伝えており、年2回クリスマスとお別れ会ではバイキング形式で給食を食べています。おにぎりの日を設け、給食のおかずをお弁当にして公園で食べるなど楽しい取り組みをしています。これらの取り組みを通して、子どもの食への関心が育てられています。

《今後の取り組みに期待したい点》

●地域の子育て家庭に向けて育児講座や講習の実施と地域への情報宣伝を期待します

園の保育課程に社会的責任として「児童福祉施設として、子育て家庭や地域に対し保育園の役割を果たす」と記載して、随時育児相談を受け付けたり、泉区主催の年1回の子育て支援イベント「いずみっこひろば」に参加し、地域の親子と一緒に遊んだり、育児相談などを行っています。しかし、これまで園から直接地域に向けて園行事などの案内や情報提供をしてきていませんでした。来年度から地域の子育て家庭に向けて、離乳食やリトミックなどの育児講座の開催を企画し、お知らせや園だよりなどを自治会に依頼するなどして回覧を計画されていますので、園で進めやすい方法での開催を期待します。また、園の園庭入り口のすぐ横に自治会の掲示板があります。園の地域に向けた掲示板を設けるか、自治会の掲示板を使用させてもらうなどして、地域に常に情報発信する機会を持たれるとなお良いでしょう。

●より使いやすいマニュアルに作り上げていかれるとさらによいでしょう

保育の心得、衛生管理、感染予防、安全管理など、多岐に渡りマニュアルが作成されていますが、同じ内容のものが他のファイルにもつづられているなど使いづらい面が見られます。今後は、タイトル別に整理され、定期的に全職員で見直しを行い、より使いやすいマニュアルに作り上げていかれるとさらによいでしょう。

《事業者が課題としている点》

地域子育て支援サービスとして育児相談を随時受け付ける体制はとっていますが、周知の仕方を工夫する必要があるため、次年度は地域の方々を保育園のイベントに招待したり、地域住民への情報提供を充実させ育児講座も行っていこう準備したりして、地域との交流や子育て支援の強化を図っていきたく考えています。このほか、次年度はクラスの保護者がコミュニケーションを取れるような場所の提供や職員が働きやすい職場環境の整備、中長期的な計画に基づく次代の後継者の育成などにも取り組みたいとしています。

評価領域Ⅰ 利用者(子ども本人)の尊重

評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



保育理念は「子ども一人ひとりのありのままを大切に、子どもの力を信じ、心身共に健やかに育てる」、保育方針は「自分を大切に他人を大切にする気持ちを育てる」「子どもの興味関心を大切に五感を働かせて好奇心を育てる」「個々の発達段階を見極め、適切な援助を行い、保護者との連携を密にして子どもの成長を共に喜び合える関係をつくる」とし、利用者本人を尊重したものとなっています。園長は子どもたちのありのままを受け入れ個性を尊重し、子どもが主体的に動けるような保育を行う園でありたいと職員に伝えています。保育理念、保育方針は保育目標とともに玄関などに掲示し、職員会議でも確認し合い、全職員が一体となって子ども一人一人を大切にする保育を実践しています。

保育課程は保育理念、保育方針、および保育目標「元気な子・優しい子・自分で考えて行動できる子」に基づき、子どもの最善の利益を第一義に作成されています。また、園長は子ども同様、保護者に対してもありのままを受け入れ寄り添える園でありたいと考えていて、日ごろから保護者との信頼関係も築けるよう努めています。保育課程は園長が中心となって作成していますが、日ごろから汲み取っている全職員の意向も反映させています。保育課程に沿った保育内容などは保護者に対して入園時や毎年4月に行う保護者向けの全体会、クラス懇談会で説明し、改訂などあれば随時お知らせします。

保育課程を基に年齢ごとの「年間指導計画」「月間指導計画」「週案」を作成しています。来年度からはパソコンによる保育管理システムを導入して年間、月間の指導計画を作成し、各指導計画をスムーズにリンクさせ計画をより保育に生かせるようにしていきます。また力を入れている食育に関する年齢ごとの「食育年間計画表」や園としての「保健年間計画」も作成しています。日々の活動については「絵カード」を使うなど年齢に応じた工夫をしながら子どもにわかりやすく説明しています。保育中、保育士は声をかけ過ぎないよう心がけ、子どもたちの主体性を尊重しています。子どもたちの様子や意向に応じて計画は柔軟に変更し子どもを第一に考えた保育を行っています。

評価分類Ⅰ-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



入園説明会(1日入園)の日には担当保育士と栄養士が個別に面談を行っています。必要に応じて園長も同席します。あわせて親と子のかかわり方も観察しています。入園時に保護者に記入してもらう「家庭生活調査票」で子ども一人一人の家庭の状況、生育歴、既往歴、子どもの状況などを把握し、個別面談で確認、記録した内容とともに職員会議などで情報共有します。入園時に得た子どもの記録類は子どもごとにファイリングし事務室でクラスごとに保管して、日々の保育に生かしています。

入園時には1週間を目安に短縮保育(慣れ保育)をお願いし、保護者の事情、子どもの状況に応じて計画を立てて無理なく進めています。新入園の0、1歳児については気持ちが安定するよう相性も考慮して担当保育士を決めています。また心の拠り所となるぬいぐるみなどの持ち込みも認めています。保護者との日々の情報交換は送迎時の会話のほか、昨年度からメール配信システムを導入し、園からのお知らせや園だより、毎日の給食や保育の様子などを写真入りで配信しています。連絡帳については0、1歳児では従来通り紙のノートでやりとりを行い、2歳児以上ではメール配信システム上で行っています。新入園児受け入れの際、在園児の不安軽減のため0歳児クラスは担任が持ち上がるなど配慮をしています。

子どもの成長、発達に応じた年齢ごとの「年間指導計画」「月間指導計画」「週案」は担任が中心となって作成しています。「年間指導計画」は1年を4期に分けて期ごとに、「月間指導計画」は毎月、保育士の自己評価欄が設けられ、「週案」が記入されている「日誌」にも反省・評価・考察欄が設けられ、計画ごとに評価、見直しを行っています。全職員が全園児を把握していて、指導計画については職員会議などでも話し合わせ、主任や園長のチェックを経て次の計画へつなげています。日ごろから送迎時の会話やメール配信システム、連絡帳、行事後アンケートなどで保護者とは密に連携をしていて、保護者の意向は指導計画にも反映させています。

評価分類 I - 3 快適な施設環境の確保



園の屋内・外とも毎日職員が担当制で清掃を行い清潔が保たれています。内装がログハウス風で木のぬくもりが感じられる園舎の各保育室に窓があり採光は良好です。0歳児保育室のみ日当たりがあまり良くないので休息の時間以外は明るいスペースや園庭に出るなど工夫しています。各保育室には温湿度計、エアコン、加湿機能付き空気清浄機などが設置され、窓を開けて換気するほか24時間換気システムが稼働していて、子どもにとって快適な環境となっています。3～5歳児の保育室はワンフロアでクラスごとに低いロッカーとカーテンで仕切られています。クラスごとの活動内容に応じて保育士間で連携しながら互いの活動がスムーズに行えるよう工夫しています。

沐浴設備は1歳児保育室横に設置されていて0歳児も一緒に使用しています。オムツかぶれやその予防、汗をかいたときや体が汚れたときなどに使用して子どもの清潔を保っています。温水シャワーは2～5歳児共用トイレにシャワーカーテン付きで設置されていて、おもらしするときなどカーテンを閉めて子どもの自尊心に配慮して対応しています。また温水シャワーに長いホースをつないで園庭での夏のプール遊びやボディペインティング、泥あそびの後などにも使用しています。沐浴設備、温水シャワーは毎日および使用のたびに清掃、消毒を行うなど清潔に管理しています。

保育室は0歳児では畳敷き、1歳児では畳敷きスペースと板の間、2歳児以上では木のぬくもりが感じられる板の間で、子どもたちは裸足で過ごしています。低い場所に子どもが取り出せるおもちゃや絵本が置かれ、可動棚やテーブルで小さなスペースやコーナーを作るなど保育室の使い方を工夫しています。食事と午睡は0、1歳児では別のスペースを使用し、2～5歳児は食事の後、掃除をして布団を敷き午睡の空間を作っています。異年齢での交流も多く、朝夕の合同保育、5歳児の年下クラスへの手伝いのほか、3～5歳児では毎日クラスごとの主活動の後、自由遊びの時間にクラス間の仕切りカーテンを開けて、年齢に関係なく廃材工作、ままごと、ブロック、折り紙や毛糸の指編みのコーナーなど自由に行き来して遊んでいます。

評価分類 I - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



0～2歳児についてはクラスごとの「月間指導計画」の中に子ども一人一人の個別指導計画欄を設け、現在の子どもの様子、ねらいと内容、保育士の援助と環境構成の項目ごとに指導計画を作成しています。3歳児以上で特別な課題がある子どもについては子どもの状況に応じて1年を前期、後期に分け年2回個別の指導計画を作成しています。保育の指導計画や子どもたちの様子、状況については職員会議、(3歳)未満児会議、(3歳)以上児会議などでも話し合い次の計画に反映させるとともに、全職員が子ども一人一人の特性を把握しながら保育にあたっています。個別の目標、指導計画は保護者と連携しながら子どもの発達、状況に応じて柔軟に見直しを行っています。

子どもが就学する小学校に子どもの状況を申し送りした後、保育所児童保育要録を送付しています。入園時に把握した家庭の状況や子どもの生育歴、既往歴、様子、状況、予防接種の記録などについては「家庭生活調査票」に記録され、進級時に家庭と連携して内容を更新しています。入園後の子どもの健康診断や身体測定の結果、年齢に応じた保育経過記録、特記事項などは「保育児童票」に記録しています。子ども一人一人の記録は子どもごとにファイリングし、事務室のキャビネットでクラスごとに保管し、全職員が情報共有して保育にあたるほか、進級時の担任の申し送りにも使用しています。

評価分類 I - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



特に配慮が必要な子どもについては、1年を前期・後期に分けて年2回、個別指導計画を作成しています。また子どもの日々の様子や状況、特記事項なども細かく記録しています。子どもの様子や状況については会議などで話し合わせ情報共有し、全職員が子ども一人一人について把握して子どものありのままを受け入れ尊重する保育に取り組んでいます。職員が外部研修などに参加した場合は研修報告書を作成し職員間で確認し合うとともに、月1回の園内研修で学び合うこともあります。現在、配慮の必要な子どもの専任保育士も育成中です。記録類は保育に生かせるよう事務室で保管し共有されています。

障がいのある子どもについては子どもの様子や特性、状況に応じて年2回個別指導計画を作成し、日々の子どもの様子や状況についても細かく記録しています。保護者と密に連携して子どもが園生活をスムーズに送れるよう努め、必要に応じて保護者の同意を得て横浜市戸塚地域療育センターと連携して助言を得ています。現在、障がいのある子どもを担当する専任保育士も育成中で積極的に外部研修にも参加し、得た情報は会議で共有したり園内研修などで全職員に周知しています。全職員で子どもの特性を理解し、ほかの子どもとも自然にかかわれるよう配慮、工夫しながら保育を進めています。園は完全なバリアフリー構造にはなっていませんが、園内の段差をなくすなどの工夫を行っています。

虐待については全職員が横浜市の「子ども虐待防止ハンドブック」を配付し定義などが周知されています。職員は登園時の親子の様子、朝の子どもの健康観察、衣服の状況などを日々よく観察するよう努めています。虐待の疑いが生じた場合、速やかに主任、園長に報告し、園内で対応を話し合います。必要に応じて泉区こども家庭支援課や児童相談所に通告、連携します。園長は理念にある「ありのままを受け入れる」ということを大切にしている子ども同様保護者にも寄り添う園でありたいと考えています。支援や見守りの必要な家庭へは個別の配慮をし、相談にも応じるようにしています。

アレルギー疾患のある子どもについては必ず医師による「生活管理指導表」を基に保護者と密に連携して適切に対応します。食物アレルギーがある場合、個別に献立表を作成し週末に翌週分を担当が保護者へ渡して内容を確認し合います。園では基本的に除去食を提供していますが、栄養士は食物アレルギーのある子どももみんなと同じように食事を楽しめるよう、可能な限り代替食の提供をするよう努めています。バイキングメニューでは子どもに人気のカレーを特別にアレルギーのある子ども食べられるルーで作り、みんなで同じカレーを味わっています。除去食提供の際は専用トレイの使用、子どもの名前と除去食品の表示、担任と調理員間での口頭確認を行い担任が子どもの隣で見守りながら食事をするなど誤食防止に努めています。

文化や生活習慣、言語の異なる家庭の子どもの受け入れ時には、面談により互いの理解を深め考え方の違いなどを尊重し、子どもが園生活をスムーズに送れるよう配慮しています。給食の献立で食材に制限がある場合は、相談のうえ個別対応します。外国籍の子どもの受け入れの際は世界地図などを使ってその子どもの国について子どもたちに話し理解を深められるよう工夫します。子どもたちに異国の文化を知らせたいとの考えで外部のアメリカ人講師による英語の時間を設け、5歳児クラスには地球儀、国旗絵本、国旗かるた、世界の人々を描いた絵本などが自由に手に取れるように置かれています。言語で意思疎通が困難な場合は翻訳ソフトや通訳を介すなどの工夫をする予定です。

評価分類 I - 6 苦情解決体制



保護者の要望、苦情について、受付担当者は主任、解決担当者は園長が務めていて、外部の第三者委員の氏名、連絡先などとともに「苦情解決体制」として入園時に保護者へ説明、配付し、玄関にも掲示しています。玄関には意見箱も設置しています。保護者懇談会は年1回、個人面談は年1回(来年度からは年2回の予定)実施し、行事(保護者参加型のお誕生会、お餅つき)の後に保護者アンケートもお願いしています。日々の送迎時の会話やメール配信システムでの個別のやりとり、連絡帳などでも保護者の意見、要望を汲み取る努力をしています。子どもに対しては個々の特性を理解し関係性を深め、一人一人の気持ちを汲み取り寄り添う保育を心がけています。

苦情の受付から解決の手順を示す文書「苦情解決体制」が整備されています。保護者から要望や苦情があった場合、必要に応じて第三者委員や外部の権利擁護機関を交えて対応する仕組みができています。要望、苦情があれば速やかに受付担当者の主任や解決責任者の園長が中心となって職員会議などで話し合い、対応解決方法を検討します。内容や対応方法については保護者へ園だよりや掲示などでお知らせします。畑側の諸事情により「お芋掘り」の中止を検討していたところ保護者からやめないでほしいとの要望をいただきました。さまざまな対策を検討して実施、継続することができ喜ばれています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ-1 保育内容【遊び】



0～2歳児のクラスでは積み木やはめ込みなどのおもちゃが、3～5歳児クラスではパズルなどが取り出しやすいように棚にしまっています。棚にしまいきれないブロックなどは備品庫にしまっています。職員は0～2歳児クラスでは子どもたちの様子を見て、3～5歳児クラスでは子どもたちの希望を聞いておもちゃを出し、さまざまな遊びのコーナーを作り、子どもたちは遊んでいます。おもちゃは年齢に合わせて取りそろえています。例えば、0歳児には、はめ込む・つまむなど基本的な動作を楽しむおもちゃ、3～5歳児には考えて構成するタイプのおもちゃを用意するなど配慮をしています。朝のクラスの集合時間までと夕方の時間、一斉活動の合間の時間は自由に遊べる時間となっています。

職員は子どもの自由な発想を受け止めながら遊びを発展させるよう心がけています。例えば、鬼ごっこのルールを子どもたちが決めて遊んだり、子どもたちの発想で、ハンバーガー、お菓子やお金を作ってお店屋さんごっこを行ったり、ピーターパンごっこがしたいとの声が上がればみんなでマントを作って楽しみました。リトミックでは、子どもの興味のあるものを表現するようにしています。一斉活動では、友達関係やルールを守るなどの社会性を育てるために、遊ぶ順番を待つことを教えるとともに、3～5歳児クラスではドッジボールや大縄跳びなどを取り入れています。職員は子どもの遊びが広がるよう一緒に遊んだり声かけをしています。

2～5歳児クラスでは、ピーマン、枝豆などを植え、毎日水やりをして生長を楽しみ、収穫したものを食べたり、絵に描いたりスタンプ遊びをして楽しんでいます。また、4、5歳児はいちご狩り、3～5歳児はみかん狩り、全クラスにはお芋掘りを行い、収穫の喜びを体験しました。5歳児クラスでは稲を育て、脱穀をして食べる取り組みをしています。散歩に出かけたときには地域の方と挨拶を交わしています。月1回、おにぎりを持って公園に遊びに行き自然と触れ合っています。5歳児は遠足で科学館に出かけ、プラネタリウムなどを楽しんでいます。また、年数回近隣の高齢者施設を訪問し、一緒に歌をうたったりプレゼント交換をするなどの交流をしています。

季節の歌のリストを作り、全クラスが朝の会や帰りの会でたくさん歌をうたい、毎月のお誕生会では、クラスごとに歌の発表をしています。0～2歳児クラスでは、定期的に歌の会とリトミックを行っています。手遊びや音楽遊びを楽しみ、お遊戯会で披露しています。感性を育てるため、フィンガーペインティングや色水遊びなど遊びを工夫しています。年1回人形劇の観賞もしています。3～5歳児は自分のお道具を持っており、自由遊びの時間に、廃材や折り紙などを使って自由に製作する姿が見られました。5歳児クラスでは、月2回英語の専門講師による英語遊びの時間を設けています。

0～2歳児のけんかのときには、まず思いを受けとめ落ち着いてから何がいけないのかを話すようにしています。3～5歳児のけんかのときには、悪かったと自分で受け入れることができるまで待つ気持ちを受けとめるようにしています。朝と夕の長時間保育と土曜保育の時間は異年齢で活動しています。バイキング食ではクラスの枠にとらわれずグループを作って会食をしたり、おにぎりの日には異年齢で食事を楽しんでいます。また、5歳児が0歳児のクラスに行って着替えなどのお手伝いをしています。職員は「保育の心得」を常備し、職員のチームワークが良く、お互いに優しく接することが大切であることなどを話し合い、気になることがあれば、園長が面談などで話をしています。

天気のよい日には毎日散歩に出かけるか園庭で遊んでいます。近隣には自然豊かな、あるいは遊具があるなどさまざまな趣の公園があり、目的によって公園を選んでいきます。紫外線対策のため、夏には園庭に日よけのシェードをかけ、外に出るときには年間を通し帽子をかぶっています。0～2歳児クラスではマットやトンネルなどを利用して運動しています。3～5歳児クラスでは月2回専門の体育講師による体操の時間を設け、講師より指導を受け、講師の来ない週には保育士が実施しています。運動会では、跳び箱やマット運動など日ごろの体操の成果を発表しています。体調のすぐれない子どもには、室内で過ごすなどの配慮をしています。



3～5歳児クラスでは、自分で食べられる量を配膳し、食べきった満足感が得られるよう配慮しています。乳児の授乳にあたっては、一対一で抱っこして与え、離乳食は子どものペースに合わせて食べさせています。2～5歳児クラスでは毎月1回クラスごとにクッキング保育を行い、4、5歳児クラスでは食事に関する話もしています。みんなで収穫したさつまいもでパンやカップケーキを作ったり、4歳児クラスではみそ作りを行ったり、5歳児クラスでは稲を植えて秋に収穫しておにぎりを作るなど、食に関心を持てるような食育活動を行っています。また、1月に5歳児と栄養士と一緒に献立を考え、3月にその献立を取り入れて給食を提供しています。

季節を感じることができるよう、春にはたけのこ、夏にはえだまめ、秋にはきのこなど旬の食材を献立に取り入れるようにしています。行事食にも配慮し、5月には春巻きをかぶと型に盛り付けて提供し、七夕にはいなり寿司を天の川風に飾りました。月1回郷土料理の日を設け、日本にもさまざまな食文化があることを伝えています。年2回クリスマスとお別れ会ではバイキング形式で給食を食べています。また、おにぎりの日を設け、給食のおかずをお弁当にして公園で食べるなど楽しい取り組みをしています。給食時には、明るい音楽を流し、楽しく食事ができるよう配慮しています。食器は強化磁器を使用しています。

献立は栄養士が立てています。月1回、栄養士と調理職員が各保育室に入って子どもと一緒に食事をし、子どもの喫食状況を見えています。毎月給食会議を行っています。給食会議には、栄養士と各クラス担任が参加し、子どもの好き嫌い、人気のある献立、行事食や食育などについて話し合っています。残食調査を行い、残食の多かった献立や人気のなかった食材は切り方を変えたり、味付けを変えています。子どもが苦手とするにんじんをドレッシングにし提供したり、ごぼうやピーマンを小さく切ってクッキーやケーキの中に入れるなどさまざまな工夫をしています。

毎月献立表を作成して保護者に配付しています。献立表には、「熱と力になるもの」「血や肉や骨になるもの」「体の調子を整えるもの」などに分けて食材を記載しています。また、郷土料理の説明や栄養と生活習慣や食に関する情報を掲載しています。自由に持ち帰ることができるように人気のあるレシピカードを玄関に用意しています。毎日玄関に給食のサンプルや食材を展示し、どのようなものを食べているか、どれぐらいの量が適量であるのかなどを知らせています。保護者が子どものお誕生会で一緒に給食を食べる機会を設け、硬さや味付けについても知らせています。その際、0歳児クラスに栄養士が入り、離乳食の進め方など食事についてアドバイスをしています。

午睡のときには絵本の読み聞かせを行い、カーテンを閉め、静かな音楽をかけるなど落ち着いて眠ることができるよう環境を整えています。職員は子どもが心地よい眠りにつけるように体をとんとんするなどし、そばについて寝かしつけています。眠れない子どもや早く目が覚めた子どもには、静かな遊びをして過ごすよう配慮しています。起床時には自然に目を覚ますことができるよう少し元気の出るけん盤ハーモニカなどの音楽をかけています。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防として、0歳児は5分おきに、1歳児は10分おきに体勢と呼吸のチェックをしています。5歳児クラスでは、就学に向けて運動会后より午睡をせず、文字の練習をしたり、外遊びを楽しんだりしています。

排泄はおやつの後、活動の後、午睡の後など活動の節目に行っていますが、子どもが行きたいと感じたときには伝えてもらい、いつでも行けるようにしています。トイレトレーニングは、0、1歳児クラスではまずトイレに慣れるよう便座に座る習慣をつけることからはじめ、トイレチェック表をつけて排尿の間隔を把握し、おむつが濡れる回数が少なくなってきたなど段階を見て、保護者と相談しながら進めています。おもらしをした子どもを叱ってはいけないことを全職員に周知しており、おもらしをしたときには沐浴室のカーテンを利用して対処し他の子どもに気づかれないようプライバシーに配慮しています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



健康や健康診断に関するマニュアルが用意されており、職員には入職時に説明するとともに、各保育室に設置いつでも見ることができるようにしています。保育中に子どもの体調に変化が見られた場合には、降園後の対応について話し合っています。年間保健計画を策定しており、園だよりの中に季節に応じて熱中症や感染症についての注意事項を載せたり、生活リズムを整えることなど健康に関する情報を掲載しています。既往歴について入園時に健康の記録に記載してもらうほか、年度末に保護者に必要事項を追記してもらっています。歯磨きは2歳児クラスの6月から行っており、3～5歳児は毎年歯科衛生士や栄養士による歯磨き指導を受けています。

全クラスとも健康診断を年2回、歯科健診を年1回、身体測定は毎月実施しています。健康診断の記録は児童票の健康の記録に記載し、入園から卒園までの健康に関する情報が一目でわかるようになっています。健康診断の場合には指摘があったときに、歯科健診の場合は歯科の結果表で結果を伝えています。虫歯があった場合には、完治したら園に完治記録を提出してもらうようにしています。健康診断の結果などで気になることがあるときには、園医に相談するなど連携を取っています。また、感染症の発症状況などについて情報を得たり、新しい傷病については園医に知らせ、対応方法などを相談しています。

感染症マニュアルが用意されており、職員には入職時に説明するとともに、各保育室に設置いつでも見ることができるようにしています。入園のしおりに登園停止基準について記載し、入園説明会などで保護者に説明しています。下痢や嘔吐の対応グッズは各保育室に用意しています。保育中に子どもが熱を出したときには保護者に連絡し、事務所などで休息するようにしてお迎えを待ちます。感染症が発症した場合には、病名や症状、登園届のことなどを記してメール配信システムに掲載しています。職員会議で感染症について話し合うとともに、近隣で流行している感染症に関する情報は事務所のホワイトボードを通して職員に知らせ情報共有しています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



衛生管理に関するマニュアルが用意されており、入職時に説明するとともに、事務所に設置いつでも見ることができるようにしています。マニュアルには、消毒など園舎内の衛生管理と清掃について記載されています。衛生管理について変更事項があった場合や加筆する必要が生じた場合には、そのつど職員会議で話し合い、改訂して全職員に周知しています。マニュアルに基づき消毒と清掃を行っており、室内は清潔な状態が保たれています。おもちゃなどの消毒も定期的に行っています。



安全管理に関するマニュアルが用意されています。事故対応と災害時の対応について記載されており、入職時に説明するとともに、事務所に設置しいつでも見ることができるようにしています。地震による転倒防止対策として、棚の上にものを置く場合には滑り止めを敷いています。定期的に安全チェックを行っています。緊急連絡のため確実に連絡が取れるよう子ども一人につき複数の連絡先を把握しており、災害時などの緊急連絡にはメール配信システムを使用することになっています。毎月1回、地震や火災を想定して避難訓練を実施しています。救急救命法は、毎年赤十字の指導を受けて全職員が会得し、避難訓練時に毎回復習をしています。

近隣の医療機関の連絡先を一覧表にして事務所に掲示しています。いざというときに備えて、救急車の呼び方も掲示しています。マニュアルにも一覧表と救急車の呼び方を掲載しています。保育中に起きた子どもの事故やけがについては、軽症であっても園長に伝え、保護者に報告しています。日誌や事故報告書に記載するとともに、引き継ぎノートである伝達記録に記載して遅番の職員に引き継ぎし、お迎え時に確実に保護者に報告できるようにしています。その日の状況は管理日誌に記載して、次の日に職員に伝えていきます。子どもがけがをしたときには集まれる職員がすぐに集まり再発防止を検討し対策を講じています。その後、事故報告書を記載し、再発防止に努めています。

不審者対応のマニュアルを用意し、全職員に周知し、事務所に設置しています。玄関は施錠し、モニター付きインターフォンを設置し、顔を確認してから開錠しています。そのほか園内に数箇所防犯カメラを設置しています。民間の警備保障会社による24時間警備システムを導入しています。年1回不審者対応訓練を行っています。地域の事故犯罪発生情報は、泉区からファックスやメールで送られてくるほか、近隣の警察や保育園とも連絡を取り合う体制ができています。



園では子どものありのままを受け入れ、子どもの主体性をはぐくみ、人権に配慮した保育を行うことを園長中心に常に確認し合い、全職員が子どもに明るく穏やかにかかわり、良いところを褒めて伸ばす姿勢を大切にしています。子どもの名前は略すことなく、～くん、～ちゃんと呼び、子どもの気持ちや主体的な行動を遮らないよう保育士からの声かけが多くなり過ぎないように配慮もしています。子どもを叱る必要がある場合は何がいけなかったのか理解できるように話し、子ども同士のけんかの場合は双方の言い分をよく聞き状況を把握したうえで互いに納得できるよう対応します。子どもが排泄を失敗した場合はシャワー室でカーテンを閉めてほかの子どもに見えないように配慮しながら対応します。

子どもが1人になりたかったり、周りから声をかけてほしくないときなどは、玄関横にある平均台をベンチ代わりに活用したり、扉のない大きな収納の中を使用したり、子どもの様子に応じて子どもが時にはクールダウンしながら1人で考えられる環境を工夫しています。その際は必ず職員間で連携し、園長やフリーの職員が必要に応じて声をかけたりしながら様子を見守ります。子どもと1対1で話し合う必要がある場合には、保育士は子どもの自尊心やプライバシーに配慮して保育室の隅や空いている保育室、談話室や事務室など、ほかの子どもの視線を気にせず済むような場所で子どもが理解し納得できるよう穏やかにかかわっています。

個人情報の取り扱いや守秘義務については全職員に対してその意義や目的を入職時に説明し、誓約書を提出してもらっています。ボランティアや実習生の受け入れの際も説明を行い周知徹底を図っています。保護者に対しては入園時に説明を行うとともに、子どもの写真の撮影や使用に関しての同意を得ています。園長が保護者一人一人に説明し同意を得て昨年度から導入したメール配信システムでは、配信した内容をパスワードを持つ保護者限定で見られますが、毎日の子どもの活動の様子なども含めて写真を使用して配信していて保護者に好評です。個人情報に関する記録は事務室の鍵のかかる書棚で保管し、パソコン内のデータはパスワードを設定して管理しています。

園内研修では、マニュアルを用いて性別による区別をしないことなどを職員に周知しています。子どもの名簿や保育中の並び順、グループ分け、身につけるものなどで区別することはありません。描画や製作においても子どもたちが好みの色を自由に選び、行事の役決めなどに関しても子どもの自主性を尊重しています。自由遊びの時間にはブロックやままごとなど思い思いの遊びに集中していて保育士は見守りながらサポートします。また子どもや保護者に対して、父親、母親の役割を固定的にとらえた話はしていません。職員が無意識に性差による固定観念で子どもにかかわる様子を見かけた場合には、職員間で声をかけ合い気をつけるようにします。



保育の理念や基本方針、保育目標は入園のしおりに記載し、保護者には入園時に説明しています。保護者懇談会では、保育方針やクラスごとに保育課程に基づいたクラスの保育目標や子どもの発達について説明し、理解度について確認しています。また、保育の理念や基本方針、保育目標は玄関に掲示し、保護者がいつでも見ることができるようになっています。園のパンフレットには、理念、基本方針や保育目標を記載し保育内容を紹介しています。

朝の受け入れ時に保護者から聞いた子どもの様子や園での子どもの様子を職員の伝達記録に記載し、お迎えのときに保護者にその日の子どもの様子を伝えています。0、1歳児クラスでは連絡帳を用意し、家庭での様子や園での様子をやり取りするだけでなく、睡眠、食事、排泄、体調などについて情報交換しています。2～5歳児クラスでは、メール配信システムで活動の様子を可能な限り写真付きで伝えています。年1回秋に1か月ほどの期間を設けて個人面談を実施しています。保護者に伝える内容を担任が話し合い、面談を実施しています。年度初めに保護者懇談会を実施しており、クラス全体の様子を伝えています。

相談にはいつでも応じることを伝えています。相談を受けるときには、事務所や空いている保育室を利用し、面談中の札をかけてほかの人に聞かれないようプライバシーに配慮しています。保護者より相談を受けた場合には、相談内容を園長、主任に報告することになっており、アドバイスを受けることのできる体制ができています。また、相談を受けた職員だけで対応しきれない場合には、園長、主任が対応することもあります。相談内容は児童票の発達記録に記載し、継続的なフォローを行っています。

毎月園だよりとクラスだよりを発行しています。クラスだよりでは、写真付きで子どもの活動の様子について伝えています。2～5歳児クラスでは、毎日メール配信システムにクラスごとの活動の様子を掲載しています。お誕生会のときには、お誕生日の子どもの写真をたくさん撮って編集しラミネート加工してプレゼントしています。お遊戯会のときには業者にビデオ撮影を依頼しており、購入することができます。保護者懇談会は年度初めに行い、クラスごとにレジメを作って、保育方針、園としての保育の取り組み方や子どもの成長について説明しています。

年間行事予定表を年度初めに保護者に配付し、保護者が予定を調整し行事に参加しやすいよう配慮しています。さらに園だよりでは次月の予定をお知らせしています。大きな行事のときには、別途お知らせを配付しています。また、全クラスでメール配信システムを導入し、さまざまなお知らせを配信しています。保育参観は期間を決めて実施していませんが、いつでもできることを伝えています。お誕生会のときにはお誕生会に参加した後、クラスで子どもと一緒に過ごし活動の様子を見ることができ、給食も一緒に食べてもらいます。保護者懇談会に参加できなかった保護者には、後日、レジメを渡しながら内容を説明しています。

保護者会組織はありませんが、保護者の方々から相談を受け園への要望を伝える係として、保護者代表を1名選出しています。今のところ、保護者代表を通しての要望は聞かれていません。5歳児クラスでは、毎年保護者が中心となって園のランチルームで謝恩会を行っており、職員が招かれています。メール配信システムを通して、保護者からの意見を聞いています。例えば、「お芋掘りの畑が使用できなくなったため、畑を貸してもらえないところがないでしょうか」と情報を発信したところ、保護者より情報があり、芋掘りができるようになったという例があります。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



園の保育課程の「社会的責任」の項目に「児童福祉施設として、子育て家庭や地域に対し保育園の役割を果たす」と記して、在園児だけでなく、地域の子育て支援も園の重要な使命として取り組んでいます。園の見学者や泉区主催の地域の子育て支援イベント「いずみっこひろば」に参加した親子から育児相談を受けたりして、園に対する子育て支援ニーズを聞いています。近隣の方々への新年の挨拶のときに、用紙を渡し、園に対する要望などを収集しています。また、園長は泉区の園長会で施設に対する要望について話し合ったり、情報交換をしています。

地域の子育て支援ニーズについて、年間指導計画の期ごとや年度末の振り返りのときに、職員会議などで話し合っています。泉区主催の地域の子育て支援イベント「いずみっこひろば」に参加して、地域の親子といっしょに遊んだり、育児相談に応じています。現在園は地域の子育て家庭に向けて保育に関する講習などを催していませんが、来年度から離乳食やリトミックなどの育児講座の開催に向けて準備していくこととしています。育児講座の開催を期待します。

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能



園は泉区こども家庭支援課を通じて、泉区の保育園などの紹介サイト「いずみっこひろばうえぶ」や横浜市こども青少年局のホームページ「ヨコハマはぴねすぽっと」などに情報提供しています。また、泉区の「地域子育て支援事業一覧」に園の育児相談を掲げ、相談者の都合を考慮して随時育児相談を受け付けています。現在、園から地域に向けて情報提供をしてきていませんでしたが、来年度から地域の子育て家庭に向けて、育児講座の開催のお知らせや園だよりなどを自治会に依頼して回覧を計画しているとのことですので、期待しています。

相談内容によっては園だけで解決できないこともありますので、嘱託医、総合病院、泉区こども家庭支援課、泉区福祉保健センター、横浜市戸塚地域療育センター、横浜市西部児童相談所、横浜市こども青少年局、消防署、警察署などの関係機関リストを作成し、事務室の電話近くに掲示して、職員にも周知しています。関係機関との連携担当は園長で、日ごろから園の運営に関する情報交換や配慮を要する子どもの相談などで関係機関と連絡を取り合い、連携関係ができています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



近隣の小学校の校庭を借りて行う園の運動会には地域の方々を招待しています。町内会で一斉に行う道路や公園の草むしりや清掃、側溝掃除などには参加協力して交流を図っています。地元の小学校との連携を強め、小学校教諭が園で保育体験をしたり、小学校、中学校の職業体験を受け入れています。泉区の子育て支援イベントには園のおもちゃや人形劇などの遊具を貸し出しています。また、園のAED(自動体外式除細動器)は全国AEDマップに掲載し、貸し出しに応じています。近隣との友好関係を維持するために、園庭の樹木の剪定や草むしりなどの環境整備を行ったり、近所の方に毎年年始の挨拶回りを行ったりしています。

子どもたちは、遊具や樹木、広場があるなど、さまざまな公園を散歩に利用したり、踊場公園のログハウス施設を利用したり、横浜こども科学館でプラネタリウムを見たりしています。散歩のときなどに出会う地域の方々には元気に挨拶をして交流しています。5歳児は、小学校を訪問し、1年生と交流したり、地域の保育園の5歳児と一緒に遊んだり、地域の2つの高齢者福祉施設を年8回ほど訪問し踊りや歌を披露して交流しています。また、5歳児は泉区主催の子育て家庭向けのイベント「キャンドルナイト」に参加してキャンドル作りを楽しんでいます。町内会のお祭りは土、日開催のため、子どもたちや保護者にお祭りの話をして興味を持ってもらうようにしています。

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供



将来の利用者のために、園のリーフレットやホームページを用意して園の情報を提供しています。リーフレットには保育理念や保育方針、保育目標や一年間の園行事、園の一日、給食についてと園の正面、給食、クッキング、散歩、園庭遊び、プール遊び、リトミックの写真を記載しています。ホームページには一覧形式で施設概要や定員、クラス、保育時間、案内図などを載せています。泉区や横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」にもすすんで園の情報を提供し、泉区の保育園などの施設紹介サイト「いずみっこひろばうえぶ」では園の保育生活の紹介動画を見ることができます。泉区で年2回発行するシニアクラブの冊子「あやめ」でも園の紹介を載せています。

利用希望者からの問い合わせには「白梅保育園によろこそ(入園案内)」や重要事項説明書、園のリーフレットなどを事務室に置き、これに基づいて保育理念や方針、目標、サービス内容などを説明しています。問い合わせには園長が対応しています。利用希望者には見学ができることを案内し、子どもの活動がよくわかる10時ごろか午後3時過ぎを勧めています。時間が合わない場合には、保育に支障を来さない範囲で、見学者の都合に合わせるよう努めています。見学者には園のリーフレットを渡して、園長より園の理念、方針やサービス内容などを説明して園舎を案内しています。

評価分類Ⅳ－3 実習・ボランティアの受け入れ



毎年、地域の複数の中学校から職業体験としてのボランティアの申し出があり、受け入れています。また、複数の大学の学生からのボランティアの申し出も受け入れています。受け入れにあたり、生徒や学生に「ボランティアの皆様へ」の書面を渡し、受け入れ担当の園長や指導担当の主任やクラス担任が「ボランティア受け入れマニュアル」に沿ってオリエンテーションを行い、園の保育理念や方針、保育の心がまえや注意事項、子どもの人権尊重や守秘義務などを説明しています。職員や保護者には事前にどんなボランティアが入るのか、口頭や園だよりで知らせています。体験後には感想文を基にミーティングを開き、振り返りと意見交換をしています。参考になる意見は園の運営に生かしています。

複数の保育の専門学校や短期大学、大学の福祉関係学部から毎年実習の申し込みがあり、受け入れています。受け入れにあたり、学生に「保育実習の学生さんへ」の書面を渡し、受け入れ担当の園長と実務担当の主任、クラス担当「実習生受け入れマニュアル」に沿ってボランティアのときと同様にオリエンテーションを行い、守秘義務に関する誓約書を受け入れています。職員や保護者には事前にどんな実習生が入るのか、口頭や園だよりで知らせています。実習の目的に応じた効果的な実習となるよう、内容を検討し実習計画を作成しています。実習の最終日には園長、主任を含めた関係者全体で反省会を開き、意見交換を行い、次につなげています。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類 V-1 職員の人材育成



園長は園の運営に必要な人材が確保されているかを常にチェックしています。毎年10月の運動会後から非常勤を含む全職員と意向調査の個人面談を行い、来年度の勤務継続の可否や転勤希望、要望などを聞いています。人材の不足が予想される場合には、ハローワークや保育の専門学校などで必要な人材の補充を行っています。保育の理念・方針をふまえた、子どもが主体的に動ける保育を実践する人材を育成するために、園長は職員研修計画書を作成しています。また、職員は年度初めに「課題票」に年間目標を記載し、年度末に「自己評価票」で達成度の自己評価チェックと課題票への自己評価を記入し、これに園長が評価コメントを書き入れて、達成度の評価を行っています。

園長の作成した「研修計画書」に基づき、職員は泉区や横浜市、保育教育機関などの研修一覧から必要な外部研修に積極的に参加できるようにしています。また、その職員のために必要な研修は園から指名して受講を勧める場合もあります。毎月1回、午睡時間中に内部研修を行い、必要に応じ非常勤職員も参加できるようにしています。横浜市戸塚地域療育センターなどの見学研修などにも参加しています。外部研修参加者は研修報告を作成し、園内研修や職員会議で発表を行い、他の職員も情報共有しています。研修に参加できなかった職員・非常勤職員には、研修報告を回覧しています。園長は研修内容の職場での活用状況などから研修を評価し、次の研修に生かしています。

非常勤職員にも職員と同じ「職員の心得」を配付しています。さらに、非常勤職員には「非常勤職員マニュアル」という職務内容の解説書を配付しています。業務にあたって園長は、保育の経験や熟練度などを考慮して職員と非常勤職員を組み合わせさせたシフト表を作成しています。非常勤職員も必要な内部研修を受けられ、また、リトミックなど園が参加指名したりして外部研修にも参加しています。非常勤職員への職員会議の内容伝達は毎月主任が行い、全職員の共通理解に努めています。非常勤職員の指導担当は園長で、職員間の会話を大切にして、コミュニケーションを図っています。

評価分類 V-2 職員の技術の向上



職員は年度末に「保育理念」ほか、計12分野108項目について自己評価を行い、職員の自己評価結果を基に園長が園の自己評価を行う仕組みができています。工夫改善事例では、健康診断結果を保護者に伝えていますが、歯科健診結果はこれまでは治療を行ったか分からなかったため、結果配付用紙を見直し、治療の進行状況が分かるように改訂し、治療完了後に園に結果を提出してもらうような返信付き結果用紙に変更しました。これにより、保護者の治癒意識も高まり、園も結果フォローができるようになりました。日本赤十字社神奈川県支部の来園を得て、乳児や幼児の救急法指導を受けています。保育では体操や英語遊びなどに外部の専任講師の指導を受けています。

年度初めに「課題票」に3つの年度目標を記載し、年度末に「保育士の自己評価」で評価項目に評価チェックなどを行い、「課題票」に文章で年度初めの目標に対する自己評価を記入して園長が評価コメントを朱記し、指導、助言する仕組みができており、定型化された書式になっています。保育の自己評価は保育課程に沿って年間指導計画、月間指導計画、保育日誌などでクラスごとに作成しています。自己評価は例えば、5歳児では、「運動会やおゆうぎ会での発表を十分に褒めてあげながら自信につながるようにしていく」とあるように、子どもの活動の結果だけでなく取り組む意欲や過程を重視して行っています。職員は自己評価を通して自己の実践の改善点を見出し、次期の計画作成につなげています。

職員は年度初めに目標を記入した課題票とともに、年度末に4段階評価の自己評価を行い、課題票に目標に対する達成度の評価などを記入し園長の再評価を受けています。園長は職員の自己評価や課題票などを基に、職員の自己評価の12の分野ごとに園の自己評価を作成しています。園の自己評価は職員会議などで園長から報告があり、職員は自己の評価結果との違いを話し合ったりしています。こうした自己評価などを通して、例えば、感染症に対するマニュアル内容が不十分であることがわかり、具体的にすぐ対応できるようマニュアルの見直しを行いました。なお、園の自己評価はファイリングして事務室前に置き、利用者がいつでも目を通せるように公表しています。

評価分類Ⅴ－3 職員のモチベーションの維持



職員の資質向上のために、「キャリアパス(キャリアアップのモデル)要件」を作成しています。これには、職員を、職員全体、初任者、中堅、主任・ベテラン、指導・管理階層に分類し、各階層ごとに必要となる経験や能力の期待水準を明示し、これを修めるための研修や活動を明文化しています。また、「職務分担表」に各職員の職務と役割分担を明確に示して、その役割の行使権限を委譲し、やりがいを持って業務にあたるようにしています。しかし、事故や苦情など状況判断を要する突発的な出来事は、速やかに主任、園長に報告、連絡、相談することを徹底しています。園長は年1回秋に勤務の意向調査を、年2回の賞与時、年度末に全職員と個人面談を行い、職務の満足度や要望、改善提案、悩みなどを聞いています。

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任



就業規則には守秘義務や個人情報保護など職員として守るべき法、規範、倫理などが明文化され、全職員は入職時に園長から説明を受け、誓約書を提出しています。また、入職時に全職員に「社会人としての基本」などを記載した業務マニュアル「職員としての心得」の配付を受け、内容の確認をしています。また、職員の自己評価でも守秘義務などを守っているか確認をしています。園や法人の経営、運営状況は法人や園のホームページ上に公開しており、利用者や職員がいつでも参照できるようになっています。虐待など世間で発生した不適切な事例は、園長が速やかにミーティングなどで具体的に話し、啓発を行っています。

横浜市資源循環局の「3R夢(スリム)スクール」出張教室に園に来てもらい、子どもたちはゴミの分別管理やリサイクルの知識を深めています。園でもペットボトル、ティッシュの空き箱、新聞紙、段ボールなどの廃材を工作材料にしたり、5歳児は1月から小学校と同じパックの牛乳を飲み、飲んだ後は自分で開いてリサイクルできるよう練習しています。緑化の推進では、プランターで草花や野菜を育てています。室内温度を適正に管理したり、本年度に全てLED電灯に交換するなど省エネルギーに取り組んでいます。電気スイッチの上に「でんきをたいせつに」や水道蛇口の上に「みずをたいせつに」のイラスト入りステッカーを貼り、節電、節水に努めています。

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



園の保育理念、保育方針、保育目標を玄関のほかトイレにも掲げ、職員や利用者が常に確認できるようにしています。また、職員には保育理念、方針、目標を表題部に明記した保育課程を配付しています。年度初めの職員会議では職員全員で保育理念、方針、目標を読み上げています。園長は常日頃から、会議やミーティングで保育理念、方針、目標に触れて話をして、職員の理解と周知を図っています。職員が年度末に行う自己評価でも最初に「保育理念」について理解度を聞いています。園長は職員の自己評価や課題票の記入内容や年4回ほどの全職員との個人面談を通じて、職員が保育理念、方針、目標を理解して保育実践を行ってきたか確認しています。

重要な意思決定をする場合には、園長は事前に保護者に説明し、意見交換をしています。例えば、従来園だより以外の園からのお知らせや子どもたちの活動の様子はホワイトボードに書いたり、インターネットの掲示板を利用していましたが、代わりに園のお知らせをメールを利用して伝えるメール配信システムを昨年度開設することにしました。職員の了承を得た後、保護者には園だよりで知らせ、意見を伺いました。子どもたちの写真も掲示するため、説明文を付し、承諾書を受け入れ、2か月近くかけて実行に移しました。尚、0、1歳児の連絡帳は従来通り残しました。運動会のような園の大きな行事のときには事務室や調理室の職員も担当を持ち、園全体で取り組んでいます。

園長が作成した研修計画書に沿って、主任はキャリアアップを目的として、横浜市や泉区のマネジメント研修などに参加したり、泉区主催の「いずみっこひろば」などの催しに積極的に参加して、地域の方々の育児相談を受けたり、他の保育園と交流したりして、視野を広げています。主任は事務室で作成したシフト表を職員の経験、熟練度などから最適な勤務体制となるよう調整したり、日々の状況に応じて特定の保育士に過度な負担とならないよう、配置調整をしています。また、職員の保育の様子を観察し、必要に応じ適切な助言、指導を行っています。主任は職員の健康状態にも気を配り、具合の悪そうな職員には理由を聞き、休憩してもらうなど必要な対応を取っています。

評価分類VI-3 効率的な運営



法律や制度の改正、待機児童の動向、地域の新設園の動向など園の運営に影響のある情報の収集、分析に努めています。園長、事務長は横浜市などが主催する法・制度の改正などの研修や説明会に積極的に参加して情報を得たり、泉区こども家庭支援課などから地域の子どもの数の動向などの情報を入手したりして分析しています。重要な情報は園長と事務長で話し合い、改善課題としたり、職員会議などで職員に説明し、対応を話し合っています。従来、職員の休憩スペースが不十分でしたが、園の向かいの建物を現在は職員休憩室として使用しています。昨年のメール配信システム採用のときにも職員の理解を得て、園全体で取り組み、無事移行できました。

園長は保育事業の中長期の方向性として、次世代の後継者の育成などに努めること、それには働きやすい職場環境を整えることが大事であるとして、平成29年度、今年度初めに3年間の中長期計画を作成しています。計画は養護、教育面で3年間の個別目標を立てるとともに、組織の見直しにも触れています。次代の組織運営に備えメール配信システムでお知らせや写真、連絡帳機能を取り入れるなど新たな仕組みを常に考えています。また、個人別の研修履歴カードを作成し、課題票と自己評価、職務分担表、分野別リーダー研修一覧と面談などにより後継者の育成を図っています。園の運営について、税理士や弁護士、設計士、司法書士などの指導、助言を受けています。

利用者本人調査

結果の特徴

調査方法

第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。また、幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施しました。

【0歳児】

おやつが終わって外遊びに行きます。順番にオムツ交換をする間、一人の子どもがおもちゃの棚からはめ込みおもちゃを取り出しました。貯金箱のようなスリットにカードを入れるおもちゃです。フタを開けて、入れ物を逆さにして中のカードを出し、カードをつかんでスリットに入れました。真剣な表情です。

外遊びから帰ってきました。靴下を脱いでほだしになります。手を洗っておむつ交換です。洗面台で石けんをつけてごしごしと、保育士と一緒に手を洗います。「ピカピカになったねー」と保育士に声をかけてもらい、紙で手を拭きます。積み木で遊びます。保育士が積み木を積みます。子どもは手を叩いて喜びましたが、次の瞬間、積み木を倒しました。ガラガラガラ、その様子を見てまた嬉しそうに手を叩いていました。一人の子どもが積み木を積みました。その子どもも自分で積んだ積み木を倒して嬉しそうです。その間に一人ずつトイレに行きます。ズボンを脱いでトイレに座ります。自らトイレに行き、自分でズボンを脱ぐ子どももいます。トイレに行きたくない子どももいます。「アンパンマンのトイレに座ってみようか」と、保育士がトイレが楽しくなるような声掛けをして誘っていました。排泄が終わり、食事です。小さな椅子に座りますが、それでも椅子が大きい子どもには背もたれをあててきちんと座ることができるよう調整していました。スプーンで食べる、スプーンにすくってもらって食べる、スプーンで口に入れてもらう、手で食べる、食べる様子はさまざまですが、保育士も一緒に食事をして、会話をしながら楽しい時間を過ごしています。

【1歳児】

お散歩に出かけます。間隔をあけていくつもの輪のついた紐(誘導ロープ)を見せて、「好きな色を選んでね」と保育士に言われて、子どもたちが二人ずつ輪を持ちます。子どもたちが全員輪を持ちました。保育士が先頭の輪を持って出発します。「端っこ通りますよ」と声をかけます。近所の方に保育士が挨拶をします。子どもたちも挨拶をしました。「〇〇ちゃんおはよう」と、近所の犬にも挨拶をしました。「お花咲いてるかな」「どんな野菜があるかな」保育士は子どもがいろいろなものに興味を持つよう声掛けをしています。公園に着きました。ペタンクをしている高齢者の方々がいます。「おはようございます。よろしく願います」と、子どもたちは保育士と一緒に挨拶をしました。高齢者の方々も嬉しそうに挨拶してくれました。滑り台があります。子どもたちが階段を上ります。上についたら座ってすべります。滑り台にはどちらにも保育士がついて、危険がないよう見守ります。「順番にできるかな？」と保育士が声を掛け、子どもたちは順番を守ることも学びます。枝や葉っぱを拾っている子どもがいます。枝で地面に絵を描いています。ほかの子どもが、手のひらを重ねて「ちょうだい」と言いました。言いながら枝を取ってしまいましたが、特にけんかにはなりません。

お散歩から帰って、手を洗います。石けんでごしごしと、一人で洗います。ズボンを自分で脱いで、トイレに座ります。また手を洗い、手を洗った子どもから席に着きます。食事が配られ、今日の献立の食材の説明を聞いて「いただきます」。スプーンやフォークを使って食べ始めました。

【2歳児】

「昨日、みんなでフルーツのお面を描いたけど、何のフルーツ描いたかな？」と、保育士が問いかけると、「いちご〜」「バナナ」「ぶどう！」と、子どもたちが元気に答えます。「これはだれが描いたのかな？」と1つずつお面を見せると、「ハ〜イ！」と手をあげる子ども、「それ〇〇ちゃんの〜！」と答える子ども、みんな楽しそうです。保育士は、子どもが色塗りをしたお面を1人ずつ頭にかぶせてあげた後、「今日はみんなが上手に塗ったお面をかぶって、フルーツバスケットをしたいと思います」と伝えます。「いちごさんとバナナさんって言ったら、いちごさんとバナナさんのお面をかぶった子がお席を動くんだよ」と、保育士がお手本を見せながらルールを子どもたちに話します。初めての遊びに戸惑う子どもたちもみんな楽しめるよう、保育士は明るい声かけをしたり、拍手をしたりしています。立ち上がって急いで席を移動しているときに、押されて転んでしまった子どもがいました。保育士が「〇〇くん、おこりんぼしないでエライね〜」と優しく声をかけ、「お友達を押していいですか？」と子どもたちに聞くと、「ダメ〜！」と子どもたちは元気に答えます。保育士は席に座れなかった子ども、大きな声が出せない子ども、席を動かない子どもなど、子ども一人一人の気持ちを汲んで、優しくかかわっていました。「お面はパパやママへのおみやげね」と聞いて、子どもたちは嬉しそうです。終了後、「お天気もいいしお外へ行きたい人〜？」との保育士の問いに、子どもたちは元気に「ハイ！」。大好きな外遊びの準備をしながら笑顔がいっぱいでした。

【3歳児】

お別れ会に部屋を飾る「輪つなぎ」を作っています。風邪で何人もお休みの子どもが出ています。保育士が箱にあらかじめ同じ大きさに切った色紙を入れた箱をテーブルに置きました。保育士が大きな見本を作り、子どもたちに説明します。「細長い色紙の色のついた方のはじめに、のりを横に付けます。子どもたちは輪を一つ作ります。「次は、同じようにのりをついたら、さっき作った輪にのりのついていない方を中に通してください」「通したら、のりをつけたところに貼り付けてください」子どもたちは絵を見ながら、保育士の説明を聞いて、真剣にのりをつけて、周りの子どもを見ながら輪に通しています。「できた」と、次々に声が上がります。「きょうはお休みのお友達の分まで頑張って作ってね」子どもたちは一つつなげると、だんだん慣れてきて、次々と作っていきます。「上手にできたね」と、保育士に褒められて子どもは嬉しそうです。開始から20分ほどで、つながった輪を15、6個ほど作った子どももいれば、6個ほどの子もいます。保育士が最後につなげて長い長い輪つなぎができました。

3～5歳児が合同で午後のおやつを食べます。今日はバレンタインデーのため、チョコレートクッキーと牛乳です。子どもたちは手作りのクッキーを食べながら、「きのう家でチョコ作ったよ」「どんなチョコ？」「うさぎの形」「かわいいね」などと会話を楽しみ、おいしそうにおやつを食べていました。

【4歳児】

みそ作り2日目です。三角巾を付け、クッキングスタイルでマスクをしています。栄養士がきのう煮ておいてくれた柔らかな大豆を確認し、子どもたちが持った透明なポリ袋に豆を入れ、足で踏みつぶします。栄養士が「まだ足りない。頑張って。かかとでつぶしてね」と声をかけます。子どもたちは、懸命に踏みつけます。「つぶしたー」「はい、いいよ」と確認しながら、一人一人に丸い黄色のプラスチック容器を渡し、踏みつぶした大豆をのせます。子どもたちは、別々のお椀に入った塩こうじ、煮汁をとり、ポリ手袋を着けます。栄養士が「全部大豆が入った入れ物に入れてください」と言うと、塩こうじなどを次々に投入します。「入ったー？」と聞くと、「入れたー」と答えます。「では、上を持って、下をギュッ、ギュッとしっかり混ぜます」みんな「ギュッ、ギュッ」と声を出し、握っています。「〇〇ちゃん、上手」と栄養士。「はい、しっかり混ぜたら、お皿に全部出して」「先生出したよ」「できた子はポリ手袋してね」「手袋付けたよ」「お皿の混ぜたものを両手でギュッ、ギュッと空気を出しながらお団子を作りましょう」一人数個ずつのお団子ができました。最後におみその元を大きな丸い容器に移し替えます。容器の半分以上の量になりました。「後は、8月ごろまで給食室でしまっておきます。おみそになるのが楽しみです。これでみそ作りを終わります」と栄養士が言うと、子どもたちは一斉に「ありがとうございました」と言ってお辞儀を返し、作業を終えました。

【5歳児】

「お休みの子が多いから、今日はひな祭りの製作を変更してかるたゲームをします」と、保育士が子どもたちに伝えます。かるたを作ってからゲームをするという流れと製作手順の説明を受けて、子どもたちは色鉛筆や筆箱を準備します。就学に備えてひらがなの学習をしている子どもたちは読み札(文字)と取り札(絵)の両方を作ります。「わからなかったら、壁のひらがな表を見たり、先生にも聞いてね」と保育士が子どもたちに声をかけます。子どもたちはかるた用の紙を前に好きなものを思い浮かべます。「えのぐであそぼ」「ぞんびがようがんにおっこちた」と、自由な発想で読み札と取り札を作っています。保育士は「かあてん」と書いた子どもに、「かーてん」と正しい表記方法を教えてあげていました。全員の製作が終わると、かるたを床に並べて子どもたちが周りに座り、ゲーム開始です。読み手の子どもが「かめはやっばりおそいな」と読み上げると「はいー」とあちこちから手が飛んできます。「お～！〇〇君、飛び込んできたね」「〇〇ちゃんも早かったねー」、時には「ずるしちゃダメだから、手はお膝です」と、保育士が声をかけます。2人同時に取った場合は公平にじゃんけんをします。取れた札数を確認し合い、楽しくゲームが終了しました。その後は3～5歳児の保育室間のカーテンを開けて、異年齢が好きなコーナーで好きな遊びをできる自由遊びの時間です。5歳児には廃材を使う自由工作、キッチンセットのままごとが人気です。空き箱などをつなげて「これ船だよ」という子ども、「強火でお肉焼いてるの」という子ども、思い思いの遊びに集中していました。

利用者家族アンケート

結果の特徴

(実施期間：平成 29年 10月 16日 ~ 平成 29年 10月 30日)

送付方法・・・園を通して保護者へ配付
回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送

送付対象世帯数： 53 回収数： 46 回収率： 86.8%

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が37人(80.4%)、「満足」が8人(17.4%)で「満足」以上の回答は合計45人(97.8%)でした。

施設への自由意見の傾向については、「経営層の先生をはじめ、先生達が子どものことを一番に考えてくださっていて、本当にありがたく思っています。子どもは保育園が大好きで、毎日楽しく通園しています」「季節に合わせた行事や、通常の保育にプラスしてクッキングや体操教室など積極的に取り入れている」「給食もとても充実しており、子どもが喜んで食べている様子がよくわかります」「親に負担がないように行事など配慮してくれている」など感謝の声が多く聞かれます。

項目別に見ますと、とても満足度が高い項目として、「問4遊び② 子どもが戸外遊びを十分しているかについては」「問4遊び① クラスの活動や遊びについては」「問4生活② お子さんが給食を楽しんでいるかについては」ほか14項目で100%の保護者が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しています。

結果の詳細

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	26.1%	56.5%	8.7%	6.5%	2.2%	0.0%

問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

保育目標や保育方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	86.8%	13.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①見学の受け入れについては	82.6%	15.2%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%
	その他： 「見学していない」というコメントがありました。					
②入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	76.1%	21.7%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
③園の目標や方針についての説明には	63.0%	34.8%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
④入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	80.4%	17.4%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%
	その他：					
⑤保育園での1日の過ごし方についての説明には	63.0%	37.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
⑥費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかを含めて)	63.0%	37.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①年間の保育や行事についての説明には	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	56.5%	37.0%	0.0%	0.0%	4.3%	2.2%
	その他: 「保護者の要望を聞く機会が今年度から始まった。生かされているのかわからない」などのコメントがありました。					

問4 保育園に関する年間の計画について

遊びについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	87.0%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②子どもが戸外遊びを十分しているかについては	91.3%	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	76.1%	21.7%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
④自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	76.1%	23.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑥遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	78.3%	21.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

生活について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①給食の献立内容については	91.3%	4.3%	2.2%	2.2%	0.0%	0.0%
	その他:					
②お子さんが給食を楽しんでいるかについては	84.8%	15.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	84.8%	15.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
④昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	76.1%	19.6%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	76.1%	17.4%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑥お子さんの体調への気配りについては	76.1%	23.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑦保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	76.1%	19.6%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①施設設備については	50.0%	47.8%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	67.4%	30.4%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	58.7%	32.6%	6.5%	2.2%	0.0%	0.0%
	その他:					
④感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	60.9%	34.8%	2.2%	0.0%	2.2%	0.0%
	その他: 「もっと機会が欲しい。保育参観日があると良い」というコメントがありました。					
②園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③園の行事の開催日や時間帯への配慮については	73.9%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
④送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	65.2%	26.1%	2.2%	0.0%	4.3%	2.2%
	その他: 「満足はしているが、送り時は急いでいることもあるので最低限のやりとりが嬉しい」などのコメントがありました。					
⑤お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	60.9%	39.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑥保護者からの相談事への対応には	63.0%	28.3%	4.3%	2.2%	2.2%	0.0%
	その他: 「相談したことがない」というコメントがありました。					
⑦開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	60.9%	23.9%	4.3%	0.0%	10.9%	0.0%
	その他: 「迎えが遅くなったことがないため、わからない」などのコメントがありました。					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①あなたのお子さんが大切にされているかについては	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	87.0%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
③アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	54.3%	23.9%	4.3%	0.0%	17.4%	0.0%
	その他: 「自分の子は該当しないですが、見ると個別にいていねいに対応されてると思います」などのコメントがありました。					
④話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	67.4%	30.4%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤意見や要望への対応については	60.9%	34.8%	2.2%	0.0%	2.2%	0.0%
	その他: 「お世話になっているからこそ言いにくい。投書箱あるが、勇気がない」というコメントがありました。					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	80.4%	17.4%	0.0%	0.0%	2.2%

事業者からの意見

この度第三者評価を受審すべき時期を迎え、初めて受審致しました。自己評価では全職員が保育を見直すきっかけとなり課題に気づく事ができました。また、マニュアルの大切さを改めて感じ、皆で内容を検討し何度も話し合いをして訪問調査を迎えました。職員一人一人が保育園の質の向上に向かって一致団結して取り組んだ事は、本当に良い経験になり今後に活かされていくと思います。

利用者家族アンケートでは、お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。これからも保護者の皆様と連携を密にして子どもの成長を共に喜び合える関係づくりに力を入れていきたいと思っております。

学研データサービスの方には、園の良い点を沢山評価していただき今後の励みとなりました。また、細かなご指導を受けこれからの目標が明確になり心より感謝しております。

本園の「子ども一人ひとりのありのままを大切に、子どもの力を信じ、心身共に健やかに育てる」という理念に基づきより良い環境を整え地域に根差した保育園となるよう努めて参りたいと思っております。